

教科：図画工作

「地震のまちを塗ろう」

指導要綱

学習指導要領との結びつき：

目標の一つより抜粋

「見たこと、感じたこと、想像したこと、伝えたいことを絵や立体に表現したり、工作に表したりするようにする。」

⇒色が持つイメージを表わせるようになるように

準備するもの

- 色鉛筆（もしくは絵の具など）
- 塗り絵の紙

ねらい

目的

- ①阪神・淡路大震災時のまちの様子を知る
- ②阪神・淡路大震災時のまちの様子がイメージできるようになる
- ③色が持つイメージを表わせるようになる
- ④見たこと、感じたこと、想像したこと、伝えたいことを絵や立体に表現したり、工作に表したりするようにする。（小学校学習指導要領より）
- ⑤人と人とのつながりがあったからこそ、現在のように復興できたことを知ってもらう

手順

1. まず、阪神・淡路大震災についての説明をする
 - ・ 阪神・淡路大震災、1995年1月17日5:46に起きた。
 - ・ 震度7の地震は神戸や淡路島を襲い、死者6434人を出した。
2. その情報や自分の知識を生かして塗ってもらう[25分程度]
 - ・ 日常の風景と震災の風景の違いを分かってもらう。
 - ・ 震災のイメージを絵に表してもらう。
 - ・ 時間が足りない場合は調節する。
 - ・ 時計には針を書いてもらう。
3. 塗ったものを貼る・見せ合う
 - ・ お互いに感想を言い合う。他者と違う点があれば理由を聞いたりする。
 - ・ 人がいる部分には何色を塗ったか、聞いてみる
 - ・ 前や後ろに貼る時間がない場合は、机に置いて回ってみてもらっても良い。
 - ・ 感想を何人か聞く、もしくは感想を紙に書いてもらう。
4. 自分（先生）が塗ったものを一例として見せ、その当時の写真があれば合わせて見せる
 - ・ 当時がどのような様子だったのかを説明する。
 - ・ 自分（先生）が塗ったものを見せることによって、大人からの視点も示す。

5. この絵を描いた山本真巨の絵の色を見せ、当時の写真と共に、状況を説明する。また、震災当時の写真と後の写真（同封）を見せ、人の力があつたからこそ、現在のように復興できたことを知ってもらおう。

注意事項

- あくまでイメージとして塗ってほしく、時間がかかるようであれば、色を決めてもらうと言ったことでもいい
- 綺麗に塗れるかどうかは確かに必要であるが、震災に対してどのようなイメージを持ち、どのような色で表現するかを重視する。
- また、絵に書き足しても良い（建物にヒビ、など）

色を塗るポイント

木：燃えていないか、季節はどうか

信号機：当時は電気が通っていない

ビル：火災が起きたか、ヒビは入っていないか

人：景色との対比、この人を見てどう感じるか（暖かいか悲しいか、など）

空：震災のイメージを空にどう表すか

時計：時間を書き加えてもらう

全体の雰囲気：暗いか明るいか

震災時の状況



2007年1月現在の復興後の状況





佐々木 ミヤ (ソウル 1930 ~ 大阪 2002)

1995年1月17日午前5時46分の神戸長田

1995年1月～3月 油彩 カンヴァス (91cm×116cm)

人と防災未来センター所蔵







